

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らし続けるという内容を含んだ理念を再考察し作成した。また、それを事業所の見やすいところに明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の運営理念を詰所の見やすいところに明示し日々確認しながら業務に就くよう心がけている。毎朝朝礼で読み上げることを実践している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。また、便りなどを利用して理解してもらえるように取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時、散歩時のあいさつなどから、日常的なつきあいへと広がるよう努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・「燃えないゴミ」当番の参加をしている。 ・自治会のお祭り、公民館行事、敬老会、近所の幼稚園で行なわれる交流会等へ参加し地域とのかかわりを深めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で民生委員や自治会の皆様と近隣の高齢者のお話を伺っている。1階の小規模を利用しいきいきサロンの会場提供を行い、民生委員さんの活動にまた近所の独居高齢者との交流のお役に立てている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は常々職員へ説明している。出来ていること、いないことを意識づけするものであることを念頭におき評価するようにしている。改善できるところは取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2ヶ月に1回行い、意見を伺っている。特に地域との交流に関して情報提供いただきサービスの向上に活かしている。外部評価も全員に配布しているが、まだ内容について話し合う段階まで来ていない。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会で市担当者より成年後見制度についてお話をお願いしたり、直接、市担当課に相談したりなど行き来し、サービスの向上に努めている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	上記のように、取り組んでおり権利擁護については、実際に支援をお願いしている方もいる。またご家族にも必要と思われる方には制度の説明をしている。今後勉強会を予定している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」についての講習会参加。防止法についての資料を作成、職員ともに理解し共有できるよう日々防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目について説明、確認し理解、納得を得られるように心がけている、見学、体験入所等で利用者、ご家族の不安を軽減するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加、友人、家族との自由 な出入りなど、機会が多いと思う。それらの 意見は、介護経過や申し送りノート等に記録 として残し、必ず全職員の目に入るように し、反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の 異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をして いる	たよりの発行で暮らしぶりを報告、面会時や 利用料の支払いに家族が来られた時に時間を とってもらい職員が個々に説明している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表 せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加、事業所のたよ りに相談窓口の案内など機会を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会 を設け、反映させている	申し送り後の話し合い、申し送りノートの活 用、及び問題発生時、必要時のミーティング の開催など意見や提案を聞く機会を設け反映 させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、 必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努 めている	利用者の状態に応じ、各時間帯の変更を行う など、利用者主体に人員配置を行い、2階・ 3階の職員がお互いに勤務調整を行うことで 協力体制を整えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられ るように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場 合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2階・3階の職員と完全に分けてしまうので はなく、時々ローテーションを組み他の階の 利用者さんとも接触するようにしてお互いに 馴染みをつくっておくことで、利用者へのダ メージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は介護への思いを大切にしており性別、年齢で差別はしていない。労働時間もほぼ規定内に収まるようにしている。ローテーションも本人の都合を聞き休日をあわせるなど配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権等の研修・勉強会に参加する。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画を立て、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画は立ててないが、職員の経験、力量に応じ研修会への参加、資格取得のすすめなどを行っている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流、相互訪問など件数は少ないが行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットごとに1泊旅行や飲み会を行っている。また、柔軟な勤務体制、屈託の無い意見を発言できる雰囲気づくり等行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告を受けるとともに、勤務状況を把握、健康診断の実施、産休・育児休暇実施、資格手当付与等労働条件の向上に向け努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設、病院、家族等からの情報提供を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止める様に、面接や体験入苑等を重ねる様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の家庭訪問、施設、病院訪問など数回にわたって面会を重ね、ご家族、本人の希望、困っていることなど話す機会を作っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所以前までに関わってきた医療機関、介護施設、その他関係諸機関からの情報収集並びに家族や本人からの聞き取りを行い適切な対応が出来るよう努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後に、まずは担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、本人が納得してから利用してもらうよう家族とも話し合いながら馴染みの関係を作る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員を含めた個々の関係のなかで、生活の場として湧き出る色々な思いを大切にしている。利用者の蓄積された生活の知恵を教わり、また出来ることをしていただいたり、支えあう関係となるよう努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へ状況報告を行い、本人からの要望または変化があった場合は相談し共に考えてもらって、家族の協力を受けることも多い。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多くの家族がよく来苑され、家族との外出、外泊など共に支えあう関係が築けている方も多し。本人の誕生日、行事等に家族を招き共に楽しめる機会を作るなど多くの接点を持つよう工夫している。その為、居室に泊まり、ゆっくり会話されている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人の馴染みのある場所に立ち寄り、馴染みの人との電話や面会等、の支援を行っている。また、行きつけの美容室でのカットやパーマを継続している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	場面場面に応じ気の合う人同士が近い席になるための工夫をしたり、職員が間に入ってコミュニケーションをとり、孤立しないように支援している。2人用、4人用のテーブルを用意し対応している。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状、精神症状の悪化等による契約終了においては家族に連絡し、状態を尋ねたり、またはお見舞いを実施するなどその後の状況を伺い関係を続けるようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングをおこない、カンファレンスなどで本人の意向に沿えるよう検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成しこれまでの生活歴や、暮らし方の記録をとり、把握に努めている。また、サービス利用者にはケアマネジャーと連絡をとり情報収集をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の心身状態また有する能力に応じ、掃除、洗い物など1日の過ごし方を把握し支援している。 個々の経過記録を作成し、1日のパターンを全職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリング、また家族との面会時に意見を聞きケアプランに反映できるようにしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、介護計画の見直しを行うと共に状態の変化に応じ随時話し合いの上、介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の「施設介護経過」記録を作成し、情報の共有、参考としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況 要望に応じて通所 訪問、宿泊と病院送迎、その他生活に必要な支援は柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・自治委員の支援を受け地域交流を行い、消防機関とも協力を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容を利用し、本人の希望に沿った髪形にしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヵ月毎に開催する運営推進会議にて地域包括支援センター職員に相談助言を得ている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により入所以前の主治医を継続して支援したり、本人の状態に応じた医療支援も行っている。また事業所かかりつけの医師には24時間、緊急対応にも対応してもらっている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医師との連携を密にしている。(堀川病院・のぞえ病院)		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの宇都医院の看護師と相談しながら健康管理をおこなっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会時に主治医より治療方針経過について説明を受けている。 退院後の通院のカンファレンスに参加するなど情報交換にも努めている。そして、早期退院後の事業所では往診や点滴等を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族を交え話し合いご家族の希望等を考慮しながら方針を決定している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師との連携を密にしながら支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	見学や体験期間を設け、その間の本人や家族の希望や状態を検討し意思を確認し、入所時の関係を深めることでダメージを防ぐよう考慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけには氏名を使用 ・人前で利用者さんの個人的な話はしない。 ・記録は個人ファイルに保管し人目にさらさない。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員と本人との関係を話しやすい雰囲気になるよう職員が心がけている。 ・一方的に職員の考えを押し付けない。 ・雑談のなかで本人の思いを尋ねている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・申し送りによってその人の前日から夜間の様子を把握し、その日の体調等を考慮している。 ・散歩、入浴、レクリエーション等を行なう際には必ず本人の意向を尋ねている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・着衣の購入に際し、職員の目で選ぶのではなく本人の好みで購入している。 ・入所前からの馴染みの店がある利用者さんには、その店が引き続き利用できるために送迎している。 ・その人らしいヘアスタイルに気をつけている。また、行きつけの美容室などに出かけている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の下ごしらえ、味見等、何らかの形で調理に携わってもらっている。出来る方は食器洗いや食器拭きなどしてもらっている。職員は、弁当を利用者さんのテーブルと一緒に食べている。おやつ時も、談話しながら楽しいひと時を過ごして戴いている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物へ行き、利用者希望のおやつ等を購入している。 ヤクルト、ヨーグルト、牛乳等の個人の好みの物を配達してもらっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チェック表を記録し個々のリズムを把握、トイレの声かけを行うなど失禁を少なくしている。また、日中は布パンツ着用者もいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に本人の入りたい時間帯を設定しており、入浴前には必ず本人の意思確認をしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣は大切に気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・料理・将棋など本人の趣味、経験に応じた楽しみごとや、役割が出来るような支援を心がけている。散歩も実施している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物には職員が付き添うが、支払い時に、本人が直接財布からお金を出し支払うように支援している。実際に所持している方が5名おられる。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を計画している。個人の体力、歩行状態を考慮して、行き先、一緒に出かけるメンバー等を決め個別に対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば、家族への働きかけは行なっている。職員と1対1で一泊の旅行や遠出を行なった。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望されれば、電話をしていただいたり取り次いだりしている。(携帯電話を持っている方もおられる。)・手紙は直接、本人へ渡し希望されれば代筆し、投函している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	・馴染みの人が気軽に訪問できるように、常に挨拶や声かけや居室にお茶の準備をするなど配慮している。 ・居室へ案内し、プライバシーが守られるよう考慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、しないケアを実施している。その為、点滴中は2時間程付き添いをしたり、定期的以外の巡視も行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はベランダのドアを開放している。(9時～17時)1階から3階まで、利用者さんの状態に応じて、単独又は職員付き添いで自由に往来できるようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	構造上各部屋の出入り口は見通せ、居間からも出入りの様子は伺える。夜間の行動に危険が伴う方にはセンサーマットなどで本人のプライバシーに配慮できるよう支援している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別に利用可能であるものを考察し、職員のもとで使用してもらっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ヒヤリ・ハット」を記入し、申し送り等で検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の行なう「普通救命講習」を受講した。また今後も定期的に研修を行う予定である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練を行なっている。近隣への働きかけはまだ少ない。防災訓練年2回実施、普通救命講習会職員参加実施。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事業所内での生活状況を話し、起こりうるリスクを家族に説明、本人の思い、家族の思いを聞き許容範囲を相談してきめ、文書として残している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタル測定を行ない、検温表に記録している。 ・利用者さんの日常の状態を把握し、表情、行動の違いに気をつけている。また訴えをよく聞くようにしている。 ・異常時は速やかにかかりつけ医へ連絡、受診している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの服薬状況を表にし、薬の内容がひと目でわかるようにしている。 ・薬事提供書を個人ファイルに綴じ薬の内容がわかるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・朝、おやつにバナナジュースをつけ、排便を促すようにしている。 ・献立に野菜を多く採りいれている。 ・朝のテレビ体操の活用。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後声かけし、歯磨きを励行している。 ・週2回義歯洗浄液を使用し洗浄消毒している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量をチェックシートに記録として残している。 ・本人の好み、摂取形態を表にし、把握できるようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	速乾性手指消毒剤を設置し、調理前、処置前後使用している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ハイター、乾燥機による熱処理等にて調理器具の消毒を行なっている。 ・定期的に冷蔵庫の掃除を行ない、食材のチェックをしている。 ・日持ちするもの以外は買い置きしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ、手摺を設置している。お雛様や、お節句人形等の季節の物で飾りつけをした。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花をテーブルや棚に飾る。 ・雑誌、新聞を置き誰もが自由に読めるようにする。 ・季節感を取り入れ、壁を飾りつける。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席の配置の工夫。 ・個人の席以外にソファを置き自由に座れるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人とよく相談し、使い慣れた家具や思い出の写真などを飾るなど、思い思いの居室を作られる方も多い。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・ 温度計、湿度計の設置。 ・ 定期的に窓をあけ、換気している。 ・ 換気扇を24時間作動させている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ 廊下、居室内手すりを設置している。 ・ バリアフリー。		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・ 居室がわかるように写真やリボンをつけている。 ・ 物品の場所を決め自由に出し入れできるようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ 花壇、畑を作り利用。職員と利用者さんが一緒に手入れをしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

利用者さんの日々の生活の中で、本人及び家族の思いに沿った生活が送れることを第一に考えてサポートできるように取り組んでいます。
また、レクリエーションを工夫し、気分転換が出来る様にしています。

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【I 理念に基づく運営】					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域の中で暮らし続けるという内容を含んだ理念を再考察し作成した。また、それを事業所の見やすいところに明示している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	事業所の運営理念を詰所の見やすいところに明示し日々確認しながら業務に就くよう心がけている。毎朝朝礼で読み上げることを実践している。		
3	—	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	地域への参加を含んだ新しい理念になっている。また、便りなどを利用して理解してもらえるよう取り組んでいる。		
2. 地域との支え合い					
4	—	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	出勤時、散歩時のあいさつなどから、日常的なつきあいへと広がるよう努めている。		
5	3	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	・「燃えないゴミ」当番の参加をしている ・自治会のお祭り、公民館行事、敬老会、近所の幼稚園で行なわれる交流会等へ参加し地域とのかかわりを深めている。		
6	—	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事務所々職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議等で民生委員や自治会の皆様と近隣の高齢者のお話を伺っている。1階の小規模を利用しいきいきサロンの会場提供を行い、民生委員さんの活動にまた近所の独居高齢者との交流のお役に立てている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
7	4	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義は常々職員へ説明している。出来ていること、いないことを意識づけするものであることを念頭におき評価するようにしている。改善できるところは取り組んでいる。		
8	5	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ほぼ、2ヶ月に1回行い、意見を伺っている。特に地域との交流に関して情報提供いただきサービスの向上に活かしている。外部評価も全員に配布しているが、まだ内容について話し合う段階まで来ていない。		
9	6	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホーム協議会で市担当者より成年後見制度についてお話をお願いしたり、直接、市担当課に相談したりなど行き来し、サービスの向上に努めている。		
10	7	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	上記のように、取り組んでおり権利擁護については、実際に支援をお願いしている方もいる。またご家族にも必要と思われる方には制度の説明をしている。今後勉強会を予定している。		
11	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	「高齢者虐待防止」についての講習会参加。防止法についての資料を作成、職員ともに理解し共有できるよう日々防止に努めている。		
4. 理念を実践するための体制					
12	—	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書の各項目について説明、確認し理解、納得を得られるように心がけている、見学、体験入苑等で利用者、ご家族の不安を軽減するようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
13	—	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への参加、友人、家族との自由な出入りなど、機会が多いと思う。それらの意見は、介護経過や申し送りノート等に記録として残し、必ず全職員の目に入るようにし、反映させている。		
14	8	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	たよりの発行で暮らしぶりを報告、面会時や利用料の支払いに家族が来られた時に時間をとってもらい職員が個々に説明している。		
15	9	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議への家族の参加、事業所のたよりに相談窓口の案内など機会を設けている。		
16	—	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	申し送り後の話し合い、申し送りノートの活用、及び問題発生時、必要時のミーティングの開催など意見や提案を聞く機会を設け反映させている。		
17	—	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	利用者の状態に応じ、各時間帯の変更を行うなど、利用者主体に人員配置を行い、2階・3階の職員がお互いに勤務調整を行うことで協力体制を整えている。		
18	10	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	2階・3階の職員と完全に分けてしまうのではなく、時々ローテーションを組み他の階の利用者さんとも接触するようにしてお互いに馴染みをつくっておくことで、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
5. 人材の育成と支援					
19	11	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員の採用は介護への思いを大切にしており性別、年齢で差別はしていない。労働時間もほぼ規定内に収まるようにしている。ローテーションも本人の都合を聞き休日をあわせるなど配慮している。		
20	12	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	人権等の研修・勉強会に参加する。		
21	13	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	育成計画は立ててないが、職員の経験、力量に応じ研修会への参加、資格取得のすすめなどを行っている。		
22	14	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流、相互訪問など件数は少ないが行っている。		
23	—	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	ユニットごとに1泊旅行や飲み会を行っている。また、柔軟な勤務体制、屈託の無い意見を発言できる雰囲気づくり等行っている。		
24	—	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	管理者からの報告を受けるとともに、勤務状況を把握、健康診断の実施、産休・育児休暇実施、資格手当付与等労働条件の向上に向け努めている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
25	—	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	施設、病院、家族等からの情報提供を参考に、出来るだけ本人の思いを受け止める様に、面接や体験入所等を重ねる様にしている。		
26	—	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前の家庭訪問、施設、病院訪問など数回にわたって面会を重ね、ご家族、本人の希望、困っていることなど話す機会を作っている。		
27	—	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所以前までに関わってきた医療機関、介護施設、その他関係諸機関からの情報収集並びに家族や本人からの聞き取りを行い適切な対応が出来るよう努めている。		
28	15	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	相談を受けた後に、まずは担当職員が何度も訪問し顔なじみの関係を作り、その後、日帰りや宿泊の体験を行い、本人が納得してから利用してもらうよう家族とも話し合いながら馴染みの関係を作る工夫をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
29	16	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員を含めた個々の関係のなかで、生活の場として湧き出る色々な思いを大切にしている。利用者の蓄積された生活の知恵を教わり、また出来ることをしていただいたり、支えあう関係となるよう努めている。		
30	—	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族へ状況報告を行い、本人からの要望または変化があった場合は相談し共に考えてもらって、家族の協力を受けることも多い。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
31	—	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	多くの家族がよく来苑され、家族との外出、外泊など共に支えあう関係が築けている方も多し。本人の誕生日、行事等に家族を招き共に楽しめる機会を作るなど多くの接点を持つよう工夫している。その為、居室に泊まり、ゆっくり会話されている。		
32	—	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出時に本人の馴染みのある場所に立ち寄り、馴染みの人との電話や面会等、の支援を行っている。また、行きつけの美容室でのカットやパーマを継続している。		
33	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支えあえるように努めている	場面場面に応じ気の合う人同士が近い席になるための工夫をしたり、職員が間に入ってコミュニケーションをとり、孤立しないように支援している。席替え、ソファやテーブルの配置を変えている。		
34	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	病状、精神症状の悪化等による契約終了においては家族に連絡し、状態を尋ねたり、またはお見舞いを実施するなどその後の状況を伺い関係を続けるようにしている。		
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
1. 一人ひとりの把握					
35	17	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	定期的なモニタリングをおこない、カンファレンスなどで本人の意向に沿えるよう検討している。		
36	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェイスシートを作成しこれまでの生活歴や、暮らし方の記録をとり、把握に努めている。また、サービス利用者にはケアマネジャーと連絡をとり情報収集をしている。		

項目番号		項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
37	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個々の心身状態また有する能力に応じ、掃除、洗い物など1日の過ごし方を把握し支援している。 個々の経過記録を作成し、1日のパターンを全職員が把握できるようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
38	18	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	カンファレンスやモニタリング、また家族との面会時に意見を聞きケアプランに反映できるようにしている。		
39	19	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的に、介護計画の見直しを行うと共に状態の変化に応じ随時話し合いの上、介護計画を作成している。		
40	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の「施設介護経過」記録を作成し、情報の共有、参考としている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
41	20	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	本人や家族の状況 要望に応じて通所 訪問 宿泊と病院送迎、その他生活に必要な支援は柔軟に支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
42	—	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	民生委員・自治委員の支援を受け地域交流を行い、消防機関とも協力を得ている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
43	—	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネージャーやサービス事業者と話しあい、他のサービスを利用するための支援をしている	訪問美容を利用し、本人の希望に沿った髪形にしている。		
44	—	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	2ヵ月毎に開催する運営推進会議にて地域包括支援センター職員に相談助言を得ている。		
45	21	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人・家族の希望により入所以前の主治医を継続して支援したり、本人の状態に応じた医療支援も行っている。また事業所かかりつけの医師には24時間、緊急対応にも対応してもらっている。		
46	—	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	精神科医師との連携を密にしている。(堀川病院・のぞえ病院)		
47	—	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	かかりつけの宇都医院の看護師と相談しながら健康管理をおこなっている。		
48	—	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	面会時に主治医より治療方針経過について説明を受けている。 退院後の通院のカンファレンスに参加するなど情報交換にも努めている。そして、早期退院後の事業所では往診や点滴等を行っている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
49	22	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医師・家族を交え話し合いご家族の希望等を考慮しながら方針を決定している。		
50	—	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医等とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	医師との連携を密にしながら支援している。		
51	—	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	見学や体験期間を設け、その間の本人や家族の希望や状態を検討し意思を確認し、入所時の関係を深めることでダメージを防ぐよう考慮している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
52	23	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	呼びかけには氏名を使用 ・人前で利用者さんの個人的な話はしない。 ・記録は個人ファイルに保管し人目にさらさない。		
53	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	職員と本人との関係を話しやすい雰囲気になるよう職員が心がけている。 ・一方的に職員の考えを押し付けない。 ・雑談のなかで本人の思いを尋ねている。		
54	24	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・申し送りによってその人の前日から夜間の様子を把握し、その日の体調等を考慮している。 ・散歩、入浴、レクリエーション等を行なう際には必ず本人の意向を尋ねている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
55	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し 容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	・着衣の購入に際し、職員目ではなく本人の好みで購入している。 ・入所前からの馴染みの店がある利用者さんには、その店が引き続き利用できるために送迎している。 ・その人らしいヘアスタイルに気をつけている。また、行きつけの美容室などに出かけている。		
56	25	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材のごしらえ、味見等、何らかの形で調理に携わってもらっている。出来る方は食器洗いや食器拭きなどしてもらっている。職員は、弁当を利用者さんのテーブルと一緒に食べている。おやつ時も、談話しながら楽しいひと時を過ごして戴いている。		
57	—	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	一緒に買い物へ行き、利用者希望のおやつ等を購入している。 ヤクルト、ヨーグルト、牛乳等の個人の好みの物を配達してもらっている。		
58	—	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄の パターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排尿チェック表を記録し個々のリズムを把握、トイレの声かけを行うなど失禁を少なくしている。また、日中は布パンツ着用者もいる。		
59	26	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの 希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	事前に本人の入りたい時間帯を設定しており、入浴前には必ず本人の意思確認をしている。		
60	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気 持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりの入眠前の習慣は大切に気持ちよく眠れるように支援している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
61	27	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	裁縫・料理・将棋など本人の趣味、経験に応じた楽しみごとや、役割が出来るような支援を心がけている。散歩も実施している。		
62	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物には職員が付き添うが、支払い時に、本人が直接財布からお金を出し支払うように支援している。		
63	28	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は散歩を計画している。個人の体力、歩行状態を考慮して、行き先、一緒に出かけるメンバー等を決め個別に対応している。		
64	—	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	本人の希望があれば、家族への働きかけは行なっている。職員と1対1で一泊の旅行や遠出を行なった。		
65	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・本人が希望されれば、電話をしていただいたり取り次いだりしている。 ・手紙は直接、本人へ渡し希望されれば代筆し、投函している。		
66	—	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるように工夫している	・馴染みの人が気軽に訪問できるように、常に挨拶や声かけや居室にお茶の準備をするなど配慮している。 ・居室へ案内し、プライバシーが守られるよう考慮している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
(4) 安心と安全を支える支援					
67	—	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束を理解し、しないケアを実施している。その為、点滴中は2時間程付き添いをしたり、定期的以外の巡視も行っている。		
68	29	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間はベランダのドアを開放している。(9時～17時)1階から3階まで、利用者さんの状態に応じて、単独又は職員付き添いで自由に往来できるようにしている。		
69	—	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	構造上各部屋の出入り口は見通せ、居間からも出入りの様子は伺える。夜間の行動に危険が伴う方にはセンサーマットなどで本人のプライバシーに配慮できるよう支援している。		
70	—	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	個別に利用可能であるものを考察し、職員のもとで使用してもらっている。		
71	—	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故を未然に防ぐために、「ヒヤリ・ハット」を記入し、申し送り等で検討している。また、定期的に火災訓練(年2回)や普通救命講習(年1回)を行っている。		
72	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	消防署の行なう「普通救命講習」を受講した。また今後も定期的に研修を行う予定である。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
73	30	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に火災訓練を行なっている。近隣への働きかけはまだ少ない。防災訓練年2回実施、普通救命講習会職員参加実施。		
74	—	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている	事業所内での生活状況を話し、起こりうるリスクを家族に説明、本人の思い、家族の思いを聞き許容範囲を相談してきめ、文書として残している。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
75	—	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	・毎日バイタル測定を行ない、検温表に記録している。 ・利用者さんの日常の状態を把握し、表情、行動の違いに気をつけている。また訴えをよく聞くようにしている。 ・異常時は速やかにかかりつけ医へ連絡、受診している。		
76	—	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・一人ひとりの服薬状況を表にし、薬の内容がひと目でわかるようにしている。 ・薬事提供書を個人ファイルに綴じ薬の内容がわかるようにしている。		
77	—	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	・朝、おやつにバナナジュースをつけ、排便を促すようにしている。 ・献立に野菜を多く採りいれている。 ・朝のテレビ体操の活用。		
78	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	・毎食後声かけし、歯磨きを励行している。 ・週2回義歯洗浄液を使用し洗浄消毒している。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
79	31	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・食事摂取量をチェックシートに記録として残している。 ・本人の好み、摂取形態を表にし、把握できるようにしている。		
80	—	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	速乾性手指消毒剤を設置し、調理前、処置前後使用している。		
81	—	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	・ハイター、乾燥機による熱処理等にて調理器具の消毒を行なっている。 ・定期的に冷蔵庫の掃除を行ない、食材のチェックをしている。 ・日持ちするもの以外は買い置きしない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
82	—	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	スロープ、手摺を設置している。お雛様や、お節句人形等の季節の物で飾りつけをした。		
83	32	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・季節の花をテーブルや棚に飾る。 ・雑誌、新聞を置き誰もが自由に読めるようにする。 ・季節感を取り入れ、壁を飾りつける。		
84	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・席の配置の工夫。 ・個人の席以外にソファを置き自由に座れるようにしている。		

項目番号		項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んで いきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
自己	外部				
85	33	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族や本人とよく相談し、使い慣れた家具や思い出の写真などを飾るなど、思い思いの居室を作られる方も多い。		
86	—	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	・ 温度計、湿度計の設置。 ・ 定期的に窓をあけ、換気している。 ・ 換気扇を24時間作動させている。		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり					
87	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・ 廊下、居室内手すりを設置している。 ・ バリアフリー		
88	—	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	・ 居室がわかるように写真やリボンをつけている。 ・ 物品の場所を決め自由に出し入れできるようにしている。		
89	—	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	・ 花壇、畑を作り利用。職員と利用者さんが一緒に手入れをしている。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目				
90	—	○職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
91	—	○利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
92	—	○利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	—	○利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	—	○利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	—	○利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
96	—	○利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
97	—	○職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
98	—	○通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねてきている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
99	—	○運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
100	—	○職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
101	—	○職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
102	—	○職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・利用者さんや家族の思いに沿った介護に気を付けています。その中で一人ひとりの状態に応じて介助を行い、残存機能の維持、もしくは向上に努めています。
- ・月に1回の外出、外食を行なっています。また、天気の良い日は必ず散歩、買い物へ行くようにしています。